



LEAP司法試験個別指導
講師スタートアップ・マニュアル



目次

1. はじめに

- 1-1. 講師スタートアップ・マニュアルの目的
- 1-2. LEAPの求める講師像
 - (1) 講師像について
 - (2) 講師の皆様を知っておいて欲しい制度と講師像の関係

2. 具体的な講師業務

- 2-1. 講師打診から初回授業を終えるまでの流れ
 - (1) 講師の打診
 - (2) 初回面談
 - 自己紹介
 - ヒアリング(目標、勉強の進捗度、指導スタイルの要望)
 - (3) 授業日程の調整、課題指定
 - (4) 課題の事前提出を受け、添削
 - (5) 初回授業
 - (6) 授業後のフォロー
- 2-2. 授業外対応について
 - (1) 課題のやりとり
 - (2) 質問の対応
 - (3) その他の対応(参考資料の送付など)
- 2-3. 授業サンプル(生徒タイプ別)
 - (1) 法科大学院合格を目指す生徒1
 - インプットが途中の段階で、アウトプットも開始した例
 - (2) 法科大学院合格を目指す生徒2
 - インプットは一通り終了し、アウトプット開始するも手応えが掴みきれていない例
 - (3) 予備試験合格を目指す生徒
 - インプットを終え、アウトプットもできるが、さらなる論文の精度向上を目指す例
- 2-4. Slackの活用方法について
 - (1) Slackとは
 - (2) 活用場面
 - 事務連絡、課題のやりとり、質問・回答

3. 終わりに

1. はじめに

1-1. 講師スタートアップ・マニュアルの目的

この講師スタートアップ・マニュアル(以下、本マニュアルといいます)の第一の目的は、LEAPが目指す指導関係のイメージ
生徒にとって「

LEAP

1-2. LEAPの求める講師像

(1) 講師像について

繰り返しになり恐縮ですが、LEAPが求める講師像は、「生徒に寄り添う」ことができ「親身な指導」をすることが出来る講師です。LEAPが講師像をこのように掲げるのは、家庭教師ならではの、細やかで柔軟な授業が出来るという特長は、講師の皆様のお力があってこそ発揮出来るものと考えているからです。

「生徒に寄り添う」「親身な指導」をより具体的に言語化すれば、それは、①細やかな計画管理をする力、②モチベーション維持も含めたコーチングの力、そして、③講師として教える力が発揮される指導ではないかと考えています。しかし、言葉だけでは、なかなかピンとこないと思いますので、本マニュアルを通して、講師像を実例を踏まえて紐解きたいと考えています。

講師の皆様の指導が、少しでも早く軌道に乗るお手伝いを、本マニュアルを通してしていきたいと考えています。

Column LEAPのいう「コーチング」って？

あえて家庭教師という形態をとるLEAPを申し込まれる生徒様には、それぞれ理由があります。理由は様々ですが、その中でも、独力では勉強が捗らない、モチベーションの管理が難しいという理由は多く見受けられます。これまで司法試験受験の主流であった集団授業や、完全な独学では、モチベーションについては完全に自己管理に委ねられていました。確かに個人の努力は必要不可欠ですが、それに限界があることも否定できません。モチベーションが下がることは非難すべきものというより、多くの人に起こりうることで、自覚して改善することが可能なことだと考えています。

そこでLEAPは、家庭教師だからこそ、モチベーション管理まで含めた指導が実現できると考えています。ここにいうコーチングの力とは、生徒の悩みなどに「共感でき」「やる気にさせる」ことが出来ること、と考えています。「自分ごと」として捉える力、というのを皆様にも意識して頂けたら、非常に嬉しく思います。

(2) 講師の皆様に知っておいて欲しい制度と講師像との関係

本マニュアルは講師像の共有と実践のお手伝いをすることが目的ですが、加えて、講師像の実現のため、LEAPは2つの制度も導入いたしました。

一つは、生徒の方々に毎月末書いて頂く、アンケート制度です。アンケートの目

LEAP
LEAP

(<https://docs.google.com/document/d/1obegu1bCR63b45xdy4S426lbO4CTWRiXrh4YjowYM4/edit?usp=sharing>)

(2017 9)

_____ (2017 9) _____
_____ 4000 _____ 10 _____ NPS* 4 _____ 3500 _____
5~7 4000 8~10 5000

(NPS Net Promoter Score

)

3 NPS

3 1 (4 , 7 , 10 , 1)
(14,000)

1

LEAP

LEAP

William Arthur Ward, 1921-1994)
LEAP

...

...

2. 具体的な講師業務

2-1. 講師打診から初回授業を終えるまでの流れ

本マニュアルをお読み頂いている講師の皆様は、講師登録を終え、今後の指導を控えた方々かと思えます。

まずは、今後の予定を把握するためにも、初回授業を終えるまでの一連の流れを説明いたします。

STEP1: 講師に対する打診

LEAPの受講申込がありますと、LEAP運営局は生徒様に講師のプロフィール一覧を送付いたします。そして、生徒様からの講師の仮指名を受けますと、講師の皆様は、当該生徒様に指導をすることが可能かどうかの打診の連絡をさせていただきます。連絡を受けられた講師の皆様は、指導条件などの情報をお読み頂き、指導可能かどうか判断して頂くことになります。

STEP2: 初回面談

講師様が指導可能である場合は、続いて運営局が初回面談をセッティングさせていただきます(仮マッチング)。

初回面談時にも講師の報酬が発生するため、初回面談に先立って契約書に目を通して頂き、契約締結のプロセスを踏みます。

【初回面談前にすること】

また、生徒、講師、運営の連絡を円滑にするためにビジネスチャットツールSlackを導入していただきます(Slackについては「2-4.Slackについて」)。

【初回面談の内容】

初回面談とは、生徒と講師の双方が実際に顔を合わせて、指導を開始するか決定して頂くきっかけとなる面談です。基本的に、運営局の者が同席する場合があります。

内容は、主に以下の通りです。

<初回面談内容①> 自己紹介

なお、初回面談のセッティングに先立って、双方のプロフィールは運営局を通して知っておられる状況にはあります。

<初回面談内容②> ヒアリング

講師の方が生徒の方へ、勉強の目標、進捗度、指導スタイルの要望を伺うことが多いです。初回授業以降のイメージを抱きやすくなるきっかけにもなります。

また、生徒から講師へ、質問や相談がされることももちろんあります。

<初回面談内容③> ヒアリング結果を踏まえた上での学習計画の立案

1ヶ月の短期スパン、及び、3~6ヶ月の長期スパンの学習計画を立てます。目標を立て、それに向かってやるべき事項を洗い出し、時期に応じてやるべきことの整理をする、というのが大まかな講師の皆様がやっておられる計画の立て方です。

*ここで立てる学習計画は初月のみ運営への提出をお願いしております。

《学習計画の例》

講師による学習計画の例です。この講師は、生徒自身の学習計画にcheck欄を設けて生徒による勉強進捗管理のきっかけを作っています。加えて、自身の指導計画も立てておられます。

	指導日	学習計画（生徒の学習計画）			指導計画		
		科目	その週やること	Check	科目	具体的内容・流れ	課題
第1週	7日	刑法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答案5通 ・ 答案構成20~30問 ・ 関連分野の復習：特に暗記を意識！ ・ 適性試験の過去問 		刑法	今週の振り返り→刑法の答案の添削(必要に応じて自主ゼミの問題の解説)→周辺知識の問答→その他アドバイス	問題5問
第2週	14日	憲法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答案5通 ・ 答案構成20~30問 ・ 関連分野の復習：特に暗記を意識！ ・ 適性試験の過去問 		憲法	今週の振り返り→刑法の答案の添削(必要に応じて自主ゼミの問題の解説)→周辺知識の問答→その他アドバイス	問題5問
第3週	21日	民事訴訟法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答案5通 ・ 答案構成20~30問 ・ 関連分野の復習：特に暗記を意識！ ・ 適性試験の過去問 		民事訴訟法	今週の振り返り→刑法の答案の添削(必要に応じて自主ゼミの問題の解説)→周辺知識の問答→その他アドバイス ※民訴は適当なタイミングで小テスト	問題5問
第4週	28日	刑事訴訟法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答案5通 ・ 答案構成20~30問 ・ 関連分野の復習：特に暗記を意識！ ・ 適性試験の過去問 		刑事訴訟法	今週の振り返り→刑法の答案の添削(必要に応じて自主ゼミの問題の解説)→周辺知識の問答→その他アドバイス	問題5問

以上のやりとりを踏まえて、生徒様がお会いした先生に指導をお願いするか決定して頂き、運営局に連絡をして頂く運びとなります。

なお、初回面談と初回授業が同じタイミングとなる場合もあります。つまり、生徒様が初回面談を踏まえるまでもなくこの講師の方をお願いしたい、という意味が定まっている場合です。その場合、初めて双方がお会いする機会が初回面談 兼 初回授業となり、初回授業に備えて次の(3)に述べる課題をだすこととなります。

STEP3: 授業日程の調整、課題指定

生徒の方から、面談でお会いした先生にお願いしたいという連絡を頂いた場合は、本マッチング成立ということになります。

そして早速、生徒・講師間で、授業日程の調整をして頂きます。

また、初回授業までの間に、講師の皆様の多くは事前に課題の出題しています。Slackを用いて、課題となる問題のデータを送付します。

STEP4: 課題の事前提出を受け、添削

他方で、生徒様も初回授業までに課題の提出を、同じくSlackを用いて行います。多くは論文の問題を課題として出して、答案をスキャンしたデータまたはスマートフォンの写真データを送付することを通じて、課題の提出をしています(課題のやり取りについては、2-2の(1)参照)。

STEP5: 初回授業

いよいよ初回授業となります。

授業の内容は、生徒・講師のペアに応じて三者三様ではありますが、

①事前課題を出した場合はその添削・解説が授業の一部になります。

②それ以外の時間は、初回面談のヒアリングを踏まえた内容の指導を、講師の皆様の裁量で授業を組み立てて頂くこととなります。

実例としては、

- ・事前課題に出た分野の周辺知識を問答形式や小テストでおさらいする
- ・生徒の溜まった疑問の消化をする(事前に疑問リストを作る生徒様も多いです)
- ・参考資料を用いて事前課題の分野について説明する

といった時間の使い方があります。

STEP6: 授業後のフォロー

授業を終えた後は、生徒・講師の皆様の双方がSlackでやり取りするのが通例です。

学習計画の共有、今週の課題の確認、来週の予定の確認などがなされます。

講師の皆様には、初回授業で立てた学習計画の共有は、必ずお願いしたいと考えています。なぜなら、あえて個別指導を選んだLEAPの生徒様は、勉強のロードマップを求めており、細やかな計画管理が授業の継続的な満足度向上に繋がるからです。

《授業後のSlack活用例》



2:49 PM

お疲れ様です！今日はありがとうございました。今日、一緒に立てた計画について、改めて確認します。

勉強計画

(1) 長期スパン(今年度)

- ・ 上位成績を残す
- ・ 予備試験の論文問題を書くことができる

(2) 中期スパン(Sセメスター)

- ・ 授業の予習・復習を溜めずに行う、試験対策に余裕がある状態→過去問を解ける学力
- ・ 授業で学習した範囲の論証、論文問題に触れる→論文問題が解ける学力(論点抽出ができる)

(3) 短期スパン(1ヶ月)

<4月> 学校の学習ペースをつかむ(インプット志向)

- ① 予習復習をスムーズに行う

(2) 中期スパン(Sセメスター)

- ・ 授業の予習・復習を溜めずに行う、試験対策に余裕がある状態→過去問を解ける学力
- ・ 授業で学習した範囲の論証、論文問題に触れる→論文問題が解ける学力(論点抽出ができる)

(3) 短期スパン(1ヶ月)

<4月> 学校の学習ペースをつかむ(インプット志向)

- ① 予習復習をスムーズに行う
- ② 復習の際、定期試験の過去問を見て出題傾向把握
- ③ 復習の際、該当分野の論証パターンを確認する
- ④ (復習に際して、他の論文問題を解く(論点抽出))

column

F

A

LEAP運営局は、「離脱率」(生徒様が解約なされる割合)もサービスの満足度を測る指標として重要視しています。なぜなら、サービスに満足している方は継続的な利用をなされているからです。

そして、一番生徒様の離脱率が高い時期が、指導開始月の月末、つまり1ヶ月経過時点です。生徒様にとってこの1ヶ月は「お試し期間」と見ている方が多く、言うなればサービス自体を値踏みしている期間とも言えます。我々は月4万円という低くはない授業料をお支払い頂いている以上は、充実したサービスを提供したいと考えています。

最初の1ヶ月は、生徒様の信頼を獲得できるかが要となってきます。そのため、講師の皆様のお力を全面にお借りしたく、最初の月の指導について、特に意識を高く授業に望んで頂きたいとお願い申し上げます。運営ともども、継続的なより良い指導関係を築くため、全力でサポートさせていただきますので、何かお困りの際には遠慮なくご一報くださいませ。

2-2. 授業外対応について

授業外対応をした場合に直ちに、追加料金が発生する訳ではないことにご注意くださいませ。

講師の皆様は、「必要な指導」(LEAP講師契約書3条1項参照)として、授業外対応も含んでおります。具体的には、論文添削業務、質問対応業務、コーチング業務、が「必要な指導」に含まれ皆様の基本給与の範囲内となります。詳しくは、契約書をご参照ください。

任意で授業外対応をして頂く分には何ら問題ありませんが、どうぞ皆様の負担にならない範囲での対応でお願いいたします。

(1) 課題のやりとり

課題のやり取りは、授業と授業の間の時期になされます。多くの講師の方は、授業の最後に来週までに解いて置くべき問題を指定して、課題を出題します。それに対して、生徒の方による課題提出として、答案をスキャンまたは写真撮影したデータを、Slackで送信する場合があります。

教材については、生徒がすでに持っている教材を使う場合、生徒に購入してもらった場合があります。講師の方は、そのような教材から問題を指定し、自分も解説などが出来るよう問題・解説のコピーをとっておられるパターンがほとんどです。

(2) 質問の対応

日々の勉強で疑問が湧いた際にSackを通して質問、回答のやり取りをする場面も多く見られます。しかし講師の皆様の過度な負担発生防止のため、講師の皆様の負担にならない範囲で、ご回答いただければと思います。

(3) その他の対応(参考資料の送付など)

さらに、必要に応じて、授業に関連した参考資料のデータを、Slackを通して共有することも見受けられます。もちろん、任意ですので、必要があると講師の皆様が判断した場合のみで構いません。その他、状況に応じて、自主的に授業外対応をして頂くことは全く構いません。もし授業外対応に関して困ったことなどがございましたら、何なりと運営事務局へお申し付けください。

Column LEAPのいう「コーチング」って？—生徒の予想外の行動に対する対応
 指導をしていく中で、生徒様の予想外の行動も時折見受けられます。講師の皆様が直面する例としては、①課題を締め切りまでにやっこない、②課題はやるものの、それ以外の自主学習を進めてこない、ということがあります。この事態は、端的に言えば、授業が終わってしまうとやる気を失ってしまう点に起因します。もちろん、生徒自身が一番、自分を奮い立たせなくてははいけません、講師の皆様にはそのきっかけ作りをしてほしいと思っております。講師の方は、Slackをつうじた呼びかけ・リマインドをする、それでもやっこない場合は注意をするという対応そしています。注意をするときは、なぜできなかったのか原因を聞いた上で打開策を示すことを心がけている講師の方もおられます。このような対応を参考にしていたければ幸いです。

このような事態に対応する力も、コーチングの力の一つの現れです。最初から、生徒の「心に火をつける」ことがすんなり出来る方は、そうそういません。最初のうちは試行錯誤、暗中模索、そんな過程を経るかもしれませんが、S出来ることから是非意識して頂きたいと思ひます。もちろん、講師の皆様のご指導がスムーズに進むよう、運営事務局もしっかりサポートさせていただきます。

2-3. 授業サンプル(生徒タイプ別)

(1)法科大学院合格を目指す生徒1

—インプットが途中だが、アウトプットも開始した段階の制

概略	生徒は、国立法科大学院が第一志望の大学4年生。 大学3年生の夏から法律の勉強を開始し、LEAPの指導を開始したのは3年生の1月。7法のインプットの途中であったが、4年生の夏以降に控えている法科大学院入試に向けて論文のアウトプットを開始したいと考え、LEAPの受講を申し込んだ。 LEAPの使い方は、論文を書くことの習慣づけをするため、論文の精度をあげるためである。	
授業内容	~20分 ~30分 ~50分 ~60分	(事前に答案添削) 1通目(民事訴訟法)の添削した答案のコメント・解説 必要に応じて、関連知識を問答式で確認。また、定義を暗記してもらうため小テストを実施。 質問タイム 2通目(刑事訴訟法)の添削した答案のコメント・解説 伝聞証拠につまづき。「真実性が問題になるか」、がしっくり来ていないようなので「要証事実」もおさらいした上で、資料と共に説明。 質問タイム
課題	週2~4通の答案。 法科大学院の過去の入試問題を使用。	
授業後のフォロー	Slack上で課題の確認をし、課題の提出も行う。 また、日々の疑問をSlackで解消する。疑問解消ペースは週に1~2つ。	

(2)法科大学院合格を目指す生徒2

ーインプットは一通り終了し、アウトプット開始するも手応えが掴みきれていない例

概略	生徒は、国立法科大学院が第一志望の大学4年生。 大学2年生から法律の勉強を開始し、LEAPの指導を開始したのは大学4年生の7月という法科大学院入試の直前期。 インプットを一通り終えた上で、法科大学院入試に向けて論文のアウトプットを開始したものの、論文の精度をあげたいと考えLEAPの受講を申し込んだ。 LEAPの使い方は、論文の精度向上のため、日々の疑問を解消するためである。	
授業内容	~15分 ~30分 ~50分 ~60分	(事前に答案添削) 1通目の添削した答案のコメント・解説 必要に応じて、関連知識を問答式で確認 質問タイム 2通目の添削した答案のコメント・解説 質問タイム
課題	週2~4通の答案。 週ごとに科目を変える。	
授業後のフォロー	Slack上で課題の確認をし、課題の提出も行う。 また、日々の疑問をSlackで解消する。疑問解消ペースは1日につき1~2つ。 必要に応じて、生徒の疑問が多かった部分、つまづいた部分の参考資料を共有。	

2-4. Slackの活用方法について

(1)Slackとは

①Slackを用いる理由

本マニュアルでも何度か出てきたSlackについて改めて説明を加えます。

Sackとは、チャットツールの一つであり、LINEのようにチャット形式のコミュニケーションをとることのできるアプリケーションです。なぜ、Slackを用いるのかというと、講師・生徒間のやりとりを運営側からもみることができる状態にするためです。二当事者だけのメールなどのやりとりで完結させるのではなく、運営も観察可能なツールを用いることで、運営の柔軟なサポートを適時にすることが可能になります。

②Slackの導入の流れ

Slackは、生徒様から仮指名を受けた後、初回面談の前に、導入して頂きます。具体的な導入方法は、運営事務局からメールにてご案内をさせていただきます。スマートフォン、パソコンのいずれににおいても、アプリケーションをダウンロードして使用可能です。

③Slackで出来ること

Sackでは、「チャンネル」と呼ばれるトークルームが作られ、講師、生徒の方がそれぞれそのチャンネルに加入します。運営側もチャンネルに加入しております。

チャンネル内では、文章のやりとりはもちろん、データ(docs, pdfなど)のやりとりも可能で、メールにデータのファイルを添付するのと同様の機能です。また、写真のデータ送付も可能です。

《Slackの機能》

Aug 11th, 2017



1:36 AM

特集読みました。ありがとうございます。

違法証拠排除すると被るというのは違法排除説で二元説をとった場合に、自白法則の当てはめと、違法収集証拠排除法則の当てはめが被るということでしょうか？

それに関連するのですが、二元説は違法排除説をとったときも使えるんでしょうか？

違法排除説は違法収集証拠排除法則の自白版と捉えるので、別途排除法則を適用することはできなくて（する必要がなく）、虚偽排除説、任意性説などにしか使えないようにも思うんですが...



4:31 PM

自白法則でも違法性を検討し、違法収集証拠排除原則でも違法性を検討するのは無駄ですよ。

そもそも、自白法則に違法収集証拠排除原則を読み込む違法排除説は、319条の文理から導き出すのは困難との評価が有力な気がします。したがって、自白法則は任意性説をとり、その中でも虚偽排除説が書きやすいと思います。

僕も学部生の時は自白法則に違法排除説を読み込んでいましたが、ローの期末も二元説をとることが期待されていたので、できれば二元説をおさえましょう。



4:53 PM

分かりました！虚偽排除説+排除法則ってことですね。それでいきます！

column Slack

Á

Slackを上手に使うことで、授業と授業の合間の時間、生徒の普段の学習にも好影響を及ぼしている講師の方々も少なくありません。授業が終わってしまうと、勉強のやる気が低下し、次の授業までの自主学習がうまくいかないことも、ありうるところです。

しかし、授業の間も先生とやり取りをすることで、やる気が持続され、普段の勉強も効率化出来るという声を聞きます。また、生徒の学習が順調であると、講師の方も授業が進めやすくなるそうです。Slackを上手に使う講師の方は、定期的に勉強が順調か、というような呼びかけをします。また、質問の解答を通じて生徒の勉強を深めていることも共通の特徴のように思えます。

講師の皆様の負担にはならないことがもちろん大前提ではありますが、Slackを上手に継続的に利用することを意識していただくと、より充実した時間に繋がるのではないかと考えています。

column Slack

Á

Slackというツールですが日本では未だ馴染みの薄いツール故にまだ具体的なイメージがついていないかたいらっしゃるのではないのでしょうか。そんな方向けに、SLACKについて興味を持っていただくために、SLACKを提供している会社についての紹介をしたいと思います。SLACKはアメリカシリコンバレーに本社を置くIT企業です。設立間もないスタートアップ・ベンチャーですが、その企業価値評価額は5000億強とも言われています。広告代理店博報堂の時価総額が5000億強であることを考えるとものすごいスピードで成長している企業になります。急成長はひとえにSLACK社のプロダクトが優れていることに起因しており、使えば使うほど便利だな...と思って頂けるプロダクトになっているので講師の皆様方もぜひ使い倒してくださいませ。

3. 終わりに

本マニュアルをお読みになって、指導関係のイメージは湧いたでしょうか？指導に先立って、疑問や不安は少しでも解決したでしょうか。

LEAP

LEAP

LEAP

The mediocre teacher tells.
The good teacher explains.
The superior teacher demonstrates.
The great teacher inspires.

William Arthur Ward, 1921-1994)

司法試驗個別指導 LEAP



